

令和元年 京都市文化財保護課 発掘調査

へいあんきゅうだいいりないかくかいろう 平安宮内裏内郭回廊跡 現地説明会

日時：令和元年8月18日（日） 10：00～12：00

担当：京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課



1 今回の発掘調査について

平安宮内裏跡は、京都市上京区田中町・小山市・東神
明町・下丸屋町を含む範囲に広がる周知の埋蔵文化財包
蔵地（遺跡）です。

主に、天皇が日常生活をすごす区域で、中央政庁で
あった朝堂院の北西に位置します。周囲を築地塀（外郭）
と回廊（内郭）で二重に囲み、その内部には天皇が政治
を行う紫宸殿、日常を過ごす清涼殿のほか、麗景殿や
弘徽殿など後宮を構成する建物が配置されていました。

内裏跡ではこれまでも発掘調査が実施されており、
現在では、その一部が史跡として指定されています。京
都市では平安宮跡全域を重要遺跡として認識し、通常よ
りも厳しい基準に則って、文化財の保護に努めています。

今回、内郭回廊跡と想定される地点において住宅の建
設が計画されたため、京都市文化財保護課が発掘調査を
行うこととなりました。



2 内裏内郭回廊とは…

内裏の内郭回廊は、築地をはさんで両側に通路を作る
構造（複廊）で、両側の柱列が屋根を支えていたと考え
られます。足元は一段高く成形され、両端にはぎょうかいがん
を用いて組んだ基壇がありました。またその外側に、河原
石を敷き詰めた雨落溝がめぐっていました。その規模は、
幅約 10 m、南北約 216 m、東西約 174 m に及びます。

内裏跡では早くから建物位置の想定復元が行われてお
り、これを参考として発掘調査を進めてきました。内

郭回廊跡は、1963 年に下立売通の下水道工事におい
て石列や基壇とみられる凝灰岩が発見されたこと、続く
1969 年と 1973 年に行われた発掘調査により、基壇
の石列が連続して検出されたため、西限ラインが確定し
ました。また、1994 年の調査により、西回廊の東基
壇（内裏の内側）とこれに沿って設けられた雨落溝が確
認されたことから、回廊の幅が明らかとなりました。

また、1979 年に今回の調査地の北側において行わ
れた発掘調査では、回廊の下を通る水路が発見されまし
た。側石に凝灰岩の切石を据え、底には河原石を敷き詰
めた丁寧な作りの遺構で、平安宮内でも大変珍しい例と
して話題となりました。ただし、遺構の残存が一部に限
られたこと、また他に出土例がないことから、この遺構
がどのように連続するのかは不明のままでした。



3 発掘調査の成果

今回の発掘調査は、1979 年の調査地の南隣接地に
あたります。通路に沿って調査区を開口したところ、北
側で見つかった水路とほぼ同じ位置に、同様の遺構を確
認しました。凝灰岩製の側石は、最大長 70cm、最大
幅 40cm、最大厚 15cm を測ります。上方にやや開く
ため、内のりは 40～45cm で、この規模も既往の事
例と合致します。以上のことから、両者は同一遺構であ
り、回廊の下を通して南下して内裏外へ続く可能性が高
いことがわかりました。

なお今回 1 区として調査を行っている地点では、内郭
回廊南限の検出が期待されます。現時点では、凝灰岩の
切石を据えた溝（平安時代末期頃）を確認しています。



図1 平安宮跡位置図

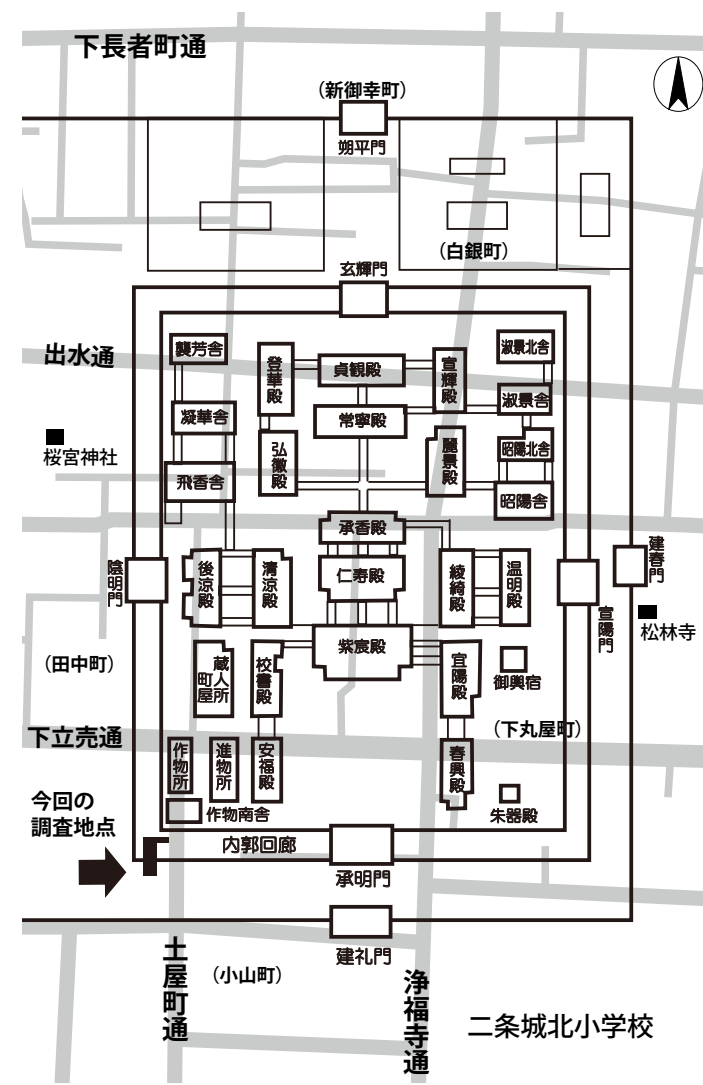


図2 内裏位置推定図

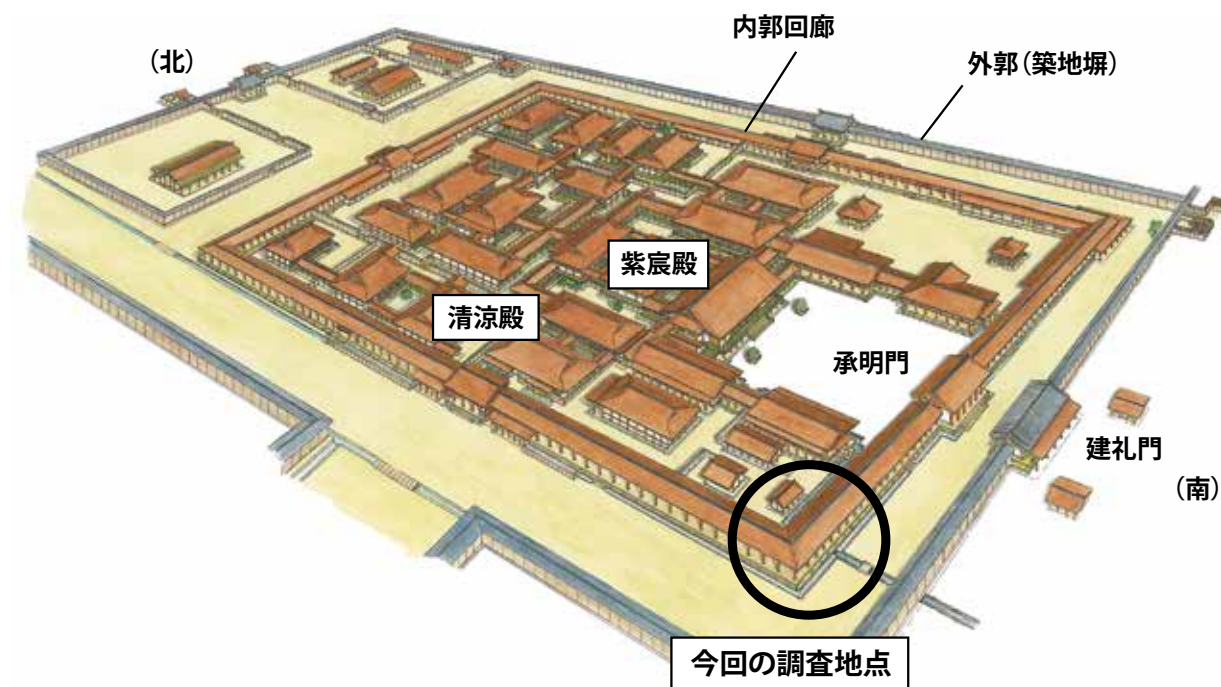


図3 内裏内郭回廊復元図（梶川敏夫（原画）に加筆）

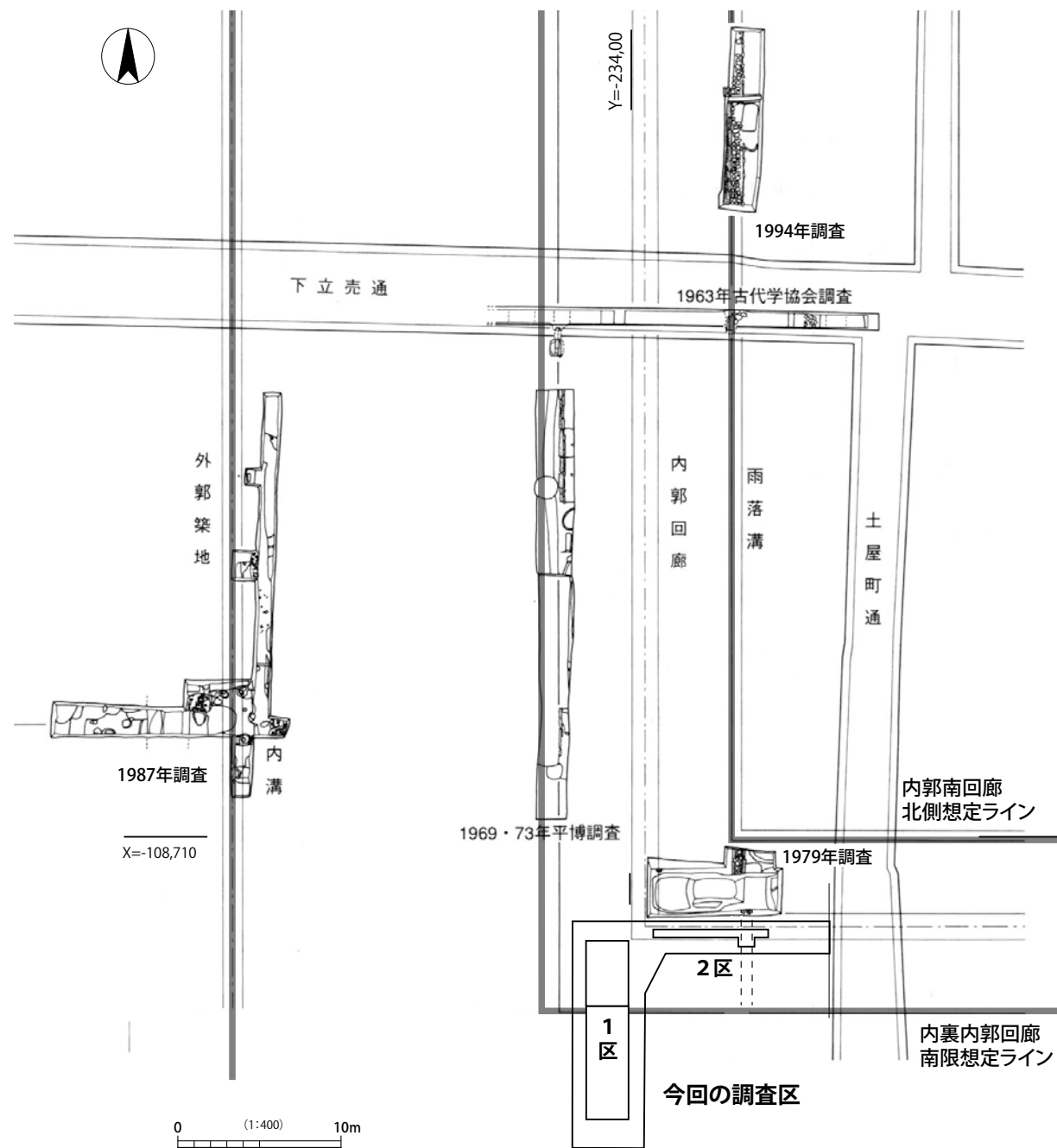


図4 調査区位置と既往の調査成果

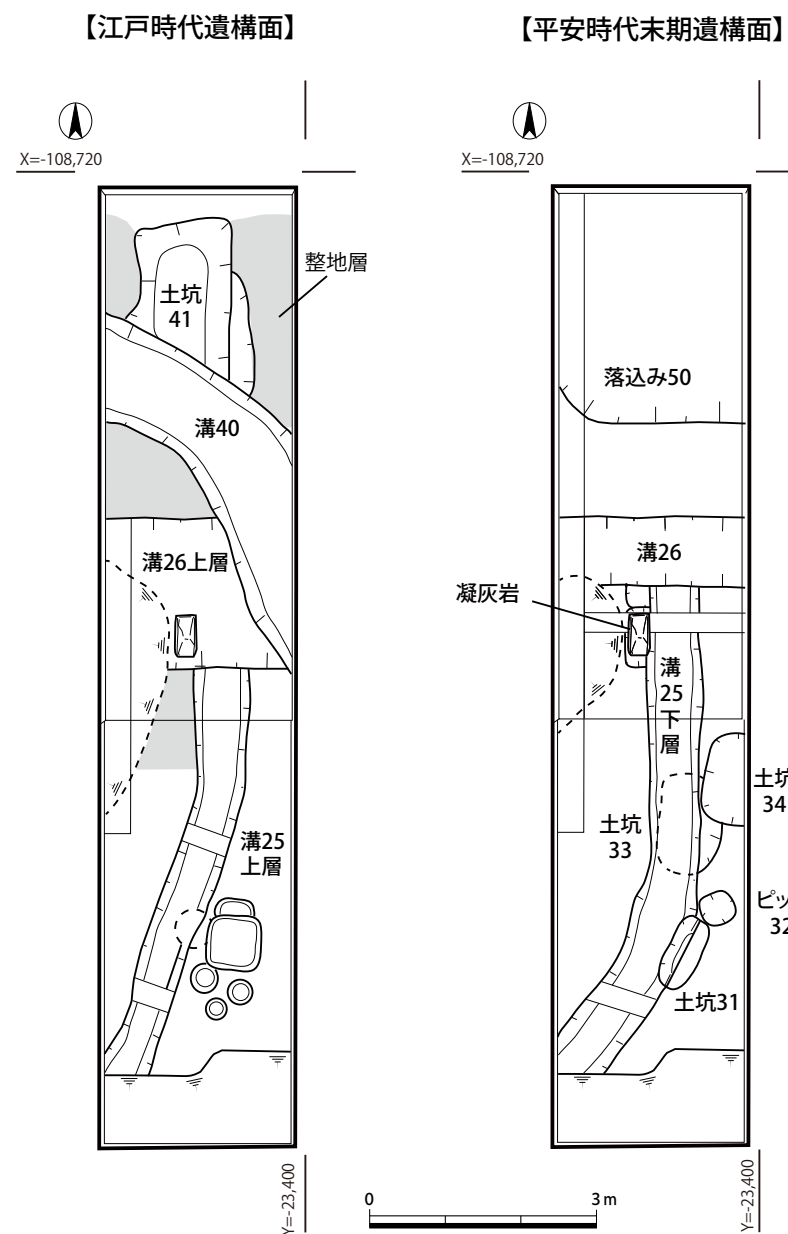


図5 1区遺構面全体図

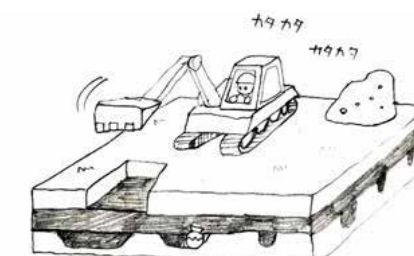


【解説】 発掘調査のすすめかた

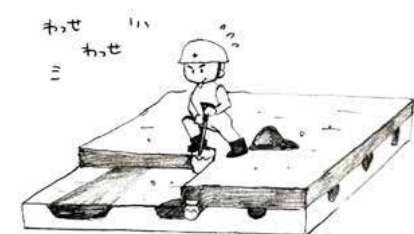
現在、発掘調査は進行中です。地域の皆様には、日頃より御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。

発掘調査は以下の方法で進めておりますので、ご不明な点がございましたら、お気軽にお声がけください。

なお発掘調査には、現場で土を掘る作業（現地調査）と、出土したものを整理する作業（整理作業）があります。双方の作業により得られた成果に基づき、適切な保護と活用を進めてまいります。



① 機械掘削……表面の土をショベルカーで掘ります。



② 人力掘削……人間の手で土を掘ります。



③ 遺構検出……土をけずって遺構をさがします。



④ 遺構掘削……遺構のなかの土を掘ります。



写真1 1979年調査で出土した水路跡

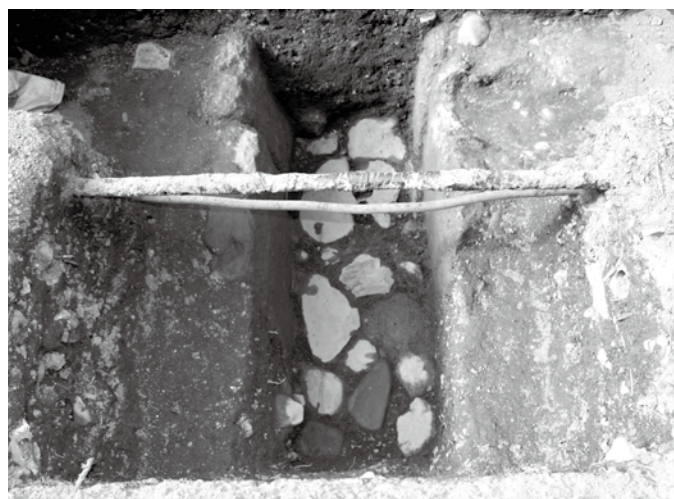


写真2 今回の調査（2区）で出土した水路跡



写真3 1区江戸時代遺構面検出状況